

# 議 事 録

日時	平成29年6月26日(月)	13時30分～15時
会議の名前	経営発達支援計画検証委員会 (平成28年事業検証)	
開催場所	海南商工会議所 3F 小会議室	
出席者	委員長 濱田智司 (株式会社 紀の州コンサルティング) 委員 南出 明彦 (和歌山県海草振興局 地域振興部 部長) 委員 北野 正 (海南市まちづくり部 部長) 事務局 米田和一 (専務理事) 高野拓哉 (経営指導員・相談事業課 課長) 岩田歩美 (経営指導員・相談事業課 主任) 畠中貴紀 (補助員・相談事業課 主事) 以上 7名	
1 開 会	事務局より開会を宣した。	
2 挨拶	米田和一専務理事よりあいさつ 各委員よりあいさつ	
3 議 題	<p>(1) 経営発達支援計画検証委員会設置要綱について 一部要項を見直し。承認される。</p> <p>(2) 検証委員会委員について 委員長に浜田智司氏が選任される。</p> <p>(3) 経営発達支援計画の概要 事務局より概要を改めて説明。</p> <p>(4) 平成28年度経営発達支援計画について まず、事務局から資料を基に主な点を報告・説明を行い意見を求めた。</p> <p>●経済動向調査について 本年度の調査実績はなし。しかし、普段の経営指導においては、「RESAS 地域経済分析システム」や、「政府統計の総合窓口 e-stat」・「J S T S A T ・地図による小地域分析(j STATMAP)」等の統計データを活用している。 また、平成29年度に伴走型支援推進事業を活用し、調査予定(外部委託)。 さらに、平成27年度、海南市と連携し「企業・事業所調査」を実施。詳細結果についてはWEBサイトに掲載し、平成28年度に海南市及び下津町商工会と合同で、和歌山大学教授を招いて報告会を開催している。 その中で、海南商工会議所の認知度はまだまだ弱い面があり、満足度調査も「普通」が多く、さらなる積み重ねが必要である旨を報告する。</p> <p>●経営状況の分析に関することについて 目標が50件対し、実績は82件。「わかやま中小企業元気ファンド申請事業所」・「マル経融資指導先」「小規模事業者持続化補助金申請事業所」等をピックアップして経営、経営分析を実施。 事業者への落とし込みについては、今後職員のさらなるスキルアップを行い、より小規模事業者の皆様に役立つ取り組みが課題となっている(29年度に自主研修を開催する)。</p> <p>●基礎データの把握について 目標が1000件対し、実績は1339件と目標を上回る結果となっている。要因として、廃業等も増加しているが、創業相談・開業事業所の相談も掘り越している結果である旨を報告する。</p> <p>●事業計画策定支援に関すること、フォローアップ事業者数について 目標が50件に対し、実績は82件。各補助金の申請やマル経融資の事業所と中心に実施。 特に、平成28年度は従前まで0件であった経営革新計画のサポートについて3件実施。 また、当所「海南こだわりブランド」の認定事業所である豆腐店と、肥料店のマッチング事例などを紹介し、定量面以外にもフォローアップによる成果も現れている点も説明する。</p>	

ただし、フォローアップ のべ回数は、目標事業所数を下回っている。

事業計画策定後のフォローアップは1事業所につき2か月に1回以上（年6回以上）目標値と設定しているが、年間2.3回程度にとどまり、事業所により偏りがある。要因として、本年度は経営指導員2名が大学校研修でそれぞれ約1か月不在だったことも響いており、所内全体での目標達成に向けた取り組みが必要である。

#### ●需要動向調査に関すること

目標が20件対し、実績は23件。

海南特産家庭用品協同組合による「秋の合同商談会」（平成29年9月21日（水）～30日（金））でのアンケート調査を実施。

実施内容については、今後見直しより広げた取り組みが課題である。

#### ●展示会・商談会出展支援事業者数

目標が20件対し、実績は24件。

本年は、フランス、メゾンエパリへの4社出展サポートなどを新たに実施。

#### ●販路開拓支援事業者数

実績は24件。

主に、海南こだわりブランド認定事業所、小規模事業者持続化補助金申請事業所についての実績。

#### ●新たな需要を開拓した小規模事業者数

実績は30件

主に、海南こだわりブランド認定事業所、その他、小規模事業者持続化補助金採択事業所のうち積極的に販路開拓支援に取り組み成果が見えている事業所。

#### ●地域経済の活性化に資する取組

「かいなん夢風鈴まつり」「家庭用品まつり・家具まつり」「紀州漆器まつり」に加えて、新たに飲食業組合等と連携し新メニュー・新食品開発に繋げる「菓子まつり・鱧まつり」を実施。

上記やそれ以各種、地域経済活性化に関して地域の関係機関と協議をし、事業を行った。

#### ●他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

##### ●経営指導員等の支援能力の向上の仕組み

昨年は、(株)紀陽銀行ご担当者・日本政策金融公庫和歌山支店ご担当者との情報交換会を2回実施したが、本年度は実施できず。また、外部研修には、個々積極的に参加しているが、所内では取り組みはできてない。

本年の特殊要因として経営指導員2名が大学校研修でそれぞれ約1か月不在等が響いている。

また今後、m和歌山よろず支援拠点等、前向きに取り組んでいる支援機関も多く、職員全体で支援能力の向上に取り組む必要がある。

##### ●支援ノウハウ等を組織内で共有する体制

経営発達支援計画の内容は、当初から職員にプリントして配布しているが、経営指導員以外の職員について、事業に係る共通認識は低下しているが、改善のきっかけとするべく、平成28年度は「小規模事業者持続化補助金」に係る事業計画サポートについて経営指導員と補助員等が実践を通じて、ノウハウの共有化とスキルアップを実施した。

##### ●持続化補助金申請件数・採択件数

申請 のべ60件 採択 26事業所（26年補正・27年補正合算）

平成26年からの取組について、別途和歌山県内の各商工会議所の実績表を基に説明。

各会議所、規模や状況は異なるものの、当所は経営指導員は最小レベルでありながら、トップクラスの申請件数・採択件数（率）となっている。

取り組みとしては最も力を入れており、掘り起こしから密に実施し採択・不採択にこだわらず、ハンズオンで事業計画の策定に繋げることを主眼としている旨を報告する。

##### ●経営改善資金（マル経）利用件数

新規案件獲得・制度周知に努めているが、昨年22件から14件減。要因として経営指導員2名が大学校研修でそれぞれ約1か月不在が若干響いているが、平成29年度に向けた掘り起こしは実施でき

ているため、平成29年度は増加の見込みであることを報告する。

●経営発達支援資金利用件数

マル経の金利が低く、小規模事業者にとって有利なため、実施件数が0件であった。  
マル経上限の2000万以上を希望する小規模事業者にはマッチするが、小規模事業者であるが由に、事業所には紹介していく

●経営力向上計画策定事業者数

申請4件（うち小規模事業者3件）。4社とも認定を受ける。当所は制度発表当初から積極的にPR、ローカルベンチマークを活用しサポートを実施する。

●ものづくり補助金申請件数

申請4件（うち小規模事業者3件）

うち採択は3件。当所は制度発表当初から積極的に計画策定をサポート。しかし近年は申請を生業とするコンサルティング事業所との競争的なものとなっているため、商工会議所としての支援負担が大きく、支援体制の見直しも必要。

●小規模事業者に対する巡回訪問件数

昨年は908件であったが、今回は大きく減少し708件、一人あたりの件数も低く全国平均の一人500件を大きく下回っていることを報告する。

ただし、その要因として、相談ニーズは掘り起こしにより増加の一方であるが、人員は不足しており「窓口」に来所を促しての相談に移行しているためである。

しかし、「巡回」は経営指導の基本であり、労務・組織体制の見直しが必要な状況である。

●小規模事業者数・会員小規模事業者数

新規会員数・脱退会員数

小規模事業者数は1631者に対し会員は893者と約50%。

新規会員は36者（内小規模30者）・脱退53者（うち小規模50者）。

しかし会員数は減少

（12）会報の折り込みでは来てもらえないため、巡回をして掘り起こす必要がある。

意見を聞く

マルケイの説明。事故率の減少に取り組んでいる。

海南は貸し金額が低いため、まだまだ掘り起こしがきかない。

三か月遅れでジコ扱いになる。二か月になればこちらから連絡している。

濱田氏・・・公庫から連絡来るのか

公庫からは連絡が来る。

濱田氏・・・地域経済動向調査1のところ、これは情報提供、大辺路のあたりの商工会は、民間事業者と組んで

業界情報（リーサス）などをまとめて持って巡回している。効果あり。

海南市事業所調査、できれば業界別に分けてほしい。漆器業界はどんな問題があるのか等の2次加工をして、

ホームページ等で公開してほしい。

業種別にどういった動向があるか分析し広報したい。

南出氏・・・人手不足に対しどう対応しているのか。巡回をしていると相談がある、中途採用はやりにくいと聞くが。

高野・・・専門性の高い仕事を求めている人材不足、小規模事業者の人手不足この二手に分かれている。

人材不足では、和歌山県が取り組んでいるプロフェッショナル人材事業やキャリアアップ補助金を活用しサポート。

人手不足では、こちらでは難しく直接的ではないが、IT導入補助金を活用して経理ソフトを導入したりなど効率化をして

人手不足を補っているのが現状である。根本的な解決は難しい。

濱田氏・・・2、3年後は会議所が主体となって就職説明会を実施しなければならないのではないか。

人件費がカツカツの所が多く、賃金アップは厳しい。

北野氏・・・この自己評価は達成度でABC判定をするのか。目標値を超えていたらAになるのか  
高野・・・国から言われているのが、数値でしか求められていない。経営発達支援資金計画も来年度は実施する見込みがないためDとなる。

北野氏・・・資料7アンケート調査を実施した。アンケート後どうなったかというコメントが欲しい  
1362社(2724名)のアンケートを取っているが、ほとんどが小規模事業者からとっていない。

濱田氏・・・国の意向は需要動向調査を活かしなさいという意向だと思う。

アンケートを部外秘ということで活かしていなければ意味がない。

濱田氏・・・小規模事業者に訪問しているときにお客様アンケートを取るよう指導されたらどうか。  
データを取ってどうすればよいか、指導をすればどうか。飲食業、小売業サービス業には大事などころ。

南出氏・・・家庭用品業界の課題は何か

高野・・・この間の議員総会では人材不足。海外でも出ていかれているため、そんな人材はどれだけでも欲しい。

皆さんが日本市場を見ていない印象がある。東南アジア系に進出したいという事業所もある。

漆器屋も若い人が出てきている。いろんな施策を活用している。海外市場に目を向けている。

南出氏・・・外国人の採用か

## (2) 平成29年度以降の経営発達支援計画に基づく取り組みについて

地域経済動向調査には外部の事業所に委託しレポートを作成したいと考えている。

f 旅行専門事業じゃらんと連携し、視察モデルコースを掲載。

例えば午前中に家庭用品の事業所を視察、昼は市内で食事、午後から漆器の蒔絵体験のような。

一般の消費者も対象としているが、県や市、各商工会議所の視察事業にPRする予定である。

団体を呼び込み地域への波及効果を取り組んでいければと考えている。

小規模事業者が対象であるため、リーフレットに掲載するのは小規模事業者が基本である。

中野BCさんのような観光地を入れれば補助金が減る可能性があるため、日本商工会議所と密に進めていく

また、当所主催のインバウンド需要を取り込むセミナーは小規模事業者に限らず参加していただくことができる。

このセミナーを受けた事業所を中心にリーフレットに掲載する予定であるが、全5回に参加することが難しいと考えられるため、

持続化補助金や元気ファンドなど補助金を積極的に活用している事業所も対象に考えている。

昨年の創業セミナーは下津商工会が主催し、大変多くの48名の参加者があった。

だが、実際の創業者は2名であった。あと2名は起業に向かって準備中。

今年は、第一回に実際に支援し起業した方をパネリストにお招きする。

創業補助金は、三件サポートし、三件採択されている。

引き続き、公募されている。

リフォーム工事補助金などこのような補助金を活用し平成29年度は実施していきたいと考えている。

### 【意見】

南出氏・・・小規模事業者をどう助ける？観光産業へ導いていくという事か？現状では観光としては弱いと考える。

高野・・・海南市の強みは、産業であるため、工場見学や蒔絵体験など。取り引きも広がる。産業観光的に取り組むのが良いのではないかと考えている。

見学に来ていただければ、BtoBを取り込めるのではないかとこの視点がある。

南出氏・・・インバウンドをしようとすれば役所の協力も必要だと思う。鱧・菓子まつりも活かしていくのはどうか。

イメージが湧かない。想定している受入は、団体なのか個別なのか。受入先が小規模事業所で、大勢に来られると対応できないのではないかと。受入体制を整える必要も出てくる。

濱田氏・・・岡崎市や田辺市のような町ゼミを提案する。会議所が音頭を取って、行政も交えた勉強会を行ってはどうか。インバウンドは購入型から体験型に変化している。

南出氏・・・修学旅行でマレーシアや中国などの子供たちが紀美野町に来ている。国から青少年育成

の補助金が出るため、有名な観光地ではなく、産業などの体験型観光を目的に田舎に人が訪れている。海南の産業もうまく活かし、そのような場を作ればインバウンド需要を見込めるのではないか。濱田氏・・・今年一年実施し、方向性を明確にし、来年のこの会で報告していただきたい。

北野氏・・・今年の事業で地域経済動向調査はどこがするのか？

高野・・・埼玉県調査会社を利用する予定です。他の商工会議所等での実績がある。

人員に余裕がなく、外部委託していく。調査結果を今後の指導に活かしていく。はまだ・・・調査会社の経費は、オーダーでやったらかなりかかる。

濱田氏・・・過去のテンプレートに入れようとしてくるので、海南ならではの調査、本当にしていただきたいことを交渉する必要がある。

実際、無駄なところややっていないことがあるのでそこは押さえていただきたい。

じゃらんの視察研修のフィードバックも調査対象にしといたほうが良い。

### (3) その他

会議所の取り組みについて説明。

濱田氏・・・巡回時に経営分析を軽くやっているので、まずはソフトに入れてデータを提供すれば、課題を克服できるのでは。

今後もご意見やご指導をいただけるようお願いし、閉会。

午後 3 時 15 分

平成 28 年度事業報告を基に、平成 28 年度経営発達支援計画について意見を求める。

#### 1. 地域の経済動向調査に関すること

平成 27 年度に行った海南省事業所調査の集計・分析について遅れているため、平成 28 年度より有効な地域経済動向の情報収集に向けた取り組みを実施すること。

県内で事業所調査をしている例があまりないことなので、優位なデータの取得を目指すこと。

#### 2. 経営状況の分析に関すること

収集したデータを有効に活用するため、所内での研修を充分行うこと

#### 3. 事業計画策定支援に関すること

フォローアップについて、すべての事業所について行き届いてないなどの課題があるため、所内組織体制を充分見直すこと。

経営革新の取り組みがおろそかとなっているため、組織の分担を行った上年 3 回の経営革新の取得目標を立て、将来的には認定支援機関を目指すこと。

#### 4. 需要動向調査に関すること

将来の合同商談会等、当所が主催となって実行することに視野に、十分な調査・準備をおこなうこと

#### 5. 経営指導員等の支援能力の向上の仕組みについて

本委員会としては評価を現状の B から A になるよう目指すこと。

#### 6. 支援ノウハウ等を組織内で共有する体制

組織内での支援の偏りを改善し、商工会議所として地域に根ざした経営指導団体として業務を行えるよう、内勤の割り振りを減へらし緊張感を持って、組織体制を見直すこと。